

一酸化炭素中毒の事故

nite ナイト

独立行政法人
製品評価技術基盤機構

中国支所 TEL : 082-211-0411

N I T Eに集約される製品安全に関する情報

製品評価技術基盤機構(NITE)では、NITEに集約される製品安全に関する情報を製品事故の未然・再発防止の観点から、製品安全情報マガジン(PSマガジン)によってタイムリーに提供しています。

寒い日が続く中、暖房が効いた室内で温かい物を口にするひとときが最もほっとしますね。今回は、この時期だからこそ特に注意したい「一酸化炭素中毒の事故」を紹介します。

事例 1

密閉した屋内で、石油ストーブ(開放式)をつけて就寝中、1人が一酸化炭素中毒で死亡した。

密閉された室内で燃焼空気取入口に多量のホコリがたまっていた状態のまま使用していたため、給気不足から不完全燃焼が起こり一酸化炭素が発生したものと考えられます。

また、就寝中で異常に気づかなかったことも一因と考えられます。



事例 2

ふろがまが故障したため、小型の開放式ガス瞬間湯沸器で湯を沸かし寸胴鍋で浴槽に移していたところ、4人が一酸化炭素中毒になった。

湯沸器の給排気口に油分を含んだホコリがたまっており、その状態で使用したことで給気不足となって不完全燃焼が起こり、一酸化炭素が発生。不完全燃焼防止装置が作動し自動消火しているにもかかわらず、点火を繰り返したため、一酸化炭素の濃度が高くなったものと考えられます。

また、換気扇を使用せず、窓も開けていませんでした。

事例 3

ガスコンベクションレンジでオーブンを使用中、2人が一酸化炭素中毒になった。

吸気口が多量のホコリなどで閉塞していたため、不完全燃焼がおこり、一酸化炭素が室内に滞留したものと考えられます。

なお、事故以前にも、オーブンを使用中に気分が悪くなったことがあったとのことでした。





【事例1の注意事項】

石油ストーブなど燃焼機器を使用する際には、時々換気を行ってください。特に、高気密住宅は要注意です。また、就寝時には使用せず、寝る前に確実に消火してください。
置き台や反射板などにたまったホコリは、掃除機で吸い取ったり、雑巾などでこまめに拭き取ったりしてください。



【事例2の注意事項】

使用中に機器が消火する場合は、換気が十分でも直ちに使用を中止し、繰り返し使用しないで下さい。湯が度々水になる、火が消えるなどの症状が繰り返し発生している場合は、不完全燃焼により安全装置が作動している可能性があります。
異常があれば販売店やガス事業者に点検・修理を依頼しましょう。



【事例3の注意事項】

吸気口や排気口がホコリ等でふさがれていないか確認し、こまめに清掃してください。
また、一酸化炭素中毒の初期症状として、頭痛、吐き気、体調不良などがみられます。「おかしい」と感じたら、すぐに使用を中止し、販売店やガス事業者に点検・修理を依頼してください。



- 一酸化炭素中毒については、2013年11月28日に「一酸化炭素中毒の事故防止」としてプレスリリースを行っております。
<http://www.nite.go.jp/jiko/chuikanki/press/2013fy/131128.html>
一酸化炭素中毒に関する注意喚起ポスター(動画等)も併せてご参照ください。
(注意喚起ミニポスター(動画等)「3-28一酸化炭素中毒」)
<http://www.nite.go.jp/jiko/chuikanki/poster/sonota/index.html>
- その他の事故事例は、「事故情報の検索」で「一酸化炭素中毒」をキーワードに検索してみてください。
<http://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/search/index.html>